

## 学力問題プロジェクトに関する私見

センター協力研究員（東京大学大学院理学系研究科助教授） 須藤 靖

私は、現在、東京大学理学部物理学教室に勤務しているが、そこでも学生の学問に対する姿勢が以前とはかなり変貌していることは、毎年のようにほとんどの同僚が一致して嘆くところである。学生の潜在的な能力や到達度とは関係ない（もちろん結果的には強い相関をもつことになるのだが）このような現象もまた、広い意味で昨今議論されている学力問題の発現の一形態である。個人的にも、自分の子供が小学校に入学する年齢になったこともあり、学力低下問題には極めて大きな関心を持っていた。そのような背景のもとで、今回のプロジェクトの研究員として参加させて頂いている。

第一回の研究会に出席して感じたのは、ある意味でのカルチャーショックである。私はいい意味でも悪い意味でも自然科学研究の方法論にどっぷりと浸かっている。そこでは、ある現象を究明する場合、(1)複雑な事象のなかから本質と考えられる部分を抜き出し、可能な限りの単純化を行う。(2)その現象を少数のパラメータを用いて説明するような仮説を立てる。(3)この仮説の正否を検証するための実験・解析を行い定量的な比較を行う。というプロセスが、あるレベルを満足するモデルが完成するまで何度も繰り返されることが普通である。したがって、個人的に第一回の研究会において期待していたのは、「学力低下」という曖昧な形のままですでに社会に浸透してしまったと思われる現象を定量的に議論するための方法論の提案であった。しかるに、そこで私がかろうじて理解し得たことを要約すれば、良く知られている現象を様々な用語でパラフレーズするという修辭的な議論でしかなかった。

さてここまでお読みになった時点で、「自然科学と社会科学はそもそも対象としているものの性質が根本的に異なり、自然科学の方法論からみれば云々といった議論は的外れである」とお感じになる方が多いかもしれない。しかし、それこそが、私の論点である。

確かに、学力という言葉一つをとったとしても、それに関して人々が抱いているイメージ、さらには、期待する内容は千差万別である。したがって、それをすべての人が納得するように定義することなど不可能かもしれない。一方、そのことを容認すれば、学力問題など単に各

人の感じ方の問題に帰着されてしまい、「学力は決して低下などしていない」という文部省の言い分に対して反論することは不可能となってしまう。私はこれこそが問題の元凶であると考えている。現在の状況を、政治家や文部省の責任であると結論し糾弾することは極めて易しいとともに、生産的であるとは言いがたい。必要なものは、誰が見ても理解できる説得力を持つような統計データとその解釈である。それに対する一つの具体例提案をある期間内に提示することこそ、このプロジェクトの使命であると考えている。通常の研究の場合、「締切」という概念はなじまない。今回の「学力問題」に関しては、完全なものを求めるよりも、時機を得た結論と提案に対してより優先度をおくべきである。

そのような立場にたてば、「教育の問題は自然科学とは違いなかなか一次元的な議論はできないから」といった弁明は、(同じ研究者の立場として大いに理解し得るのではあるが)、現状をどうするという代替案を提示できないという意味において、責任放棄というそしりを免れ得ない。

以上を踏まえて、今後のプロジェクトの進め方について少し思いついたことを提案させて頂きたい。

- (1)作業目標と日程をまず設定し、それに沿って具体的な年間計画をたてながらプロジェクトを進める。
- (2)学力の定義を行うこと。ただし、ここでの「学力」は通常用いられている広い意味ではなく、極めて限定された用語として定義されるものと理解すべきである。学力とは本来極めて多次元な尺度から成り立っているものであるから、それらを意図的に限定し、「学力A」「学力B」「学力C」…といった数多くの異なる角度に焦点を当てた複数の定義を併用し、それらを総合的に判断すればよい。むしろ、過去のデータが存在する、あるいは今後客観的データを蓄積することが可能であるような定義を積極的に採用するほうが良いかもしれない。
- (3)プロジェクト会議は議論を中心とすること。現在は、主として誰かが話題提供を行い、それに対して少ない時間での議論を行う、というスタイルで進行している。

これは逆にすべきである。話題，あるいは，上記の(1)，(2)に対応することは十分事前に配布しておき，それを叩き台として議論を通じてより優れたものにするべきである（ちなみに，個人的には，毎回提供された話題そのものよりも，その後での現場の先生方からのご意見等のほうがより興味深かったように感じている。ただしその場合，学力低下に対する個別な事例や技術的側面が主となる可能性があり，それよりも先に(2)のよ

うな一般的な議論を行っておくべきである）。

教育に関しては研究員のなかで最も門外漢の立場でありながら，かなり失礼な文章になってしまったかもしれない。その点に関しては，洗練されたやわらかい文章を書く訓練を受けていない粗野な物理屋であることをご考慮の上でお許し願うとともに，意図するものをくみ取って頂ければ幸いである。